

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.228

ISSN 2432-5295

東京

TOKYO



C O N T E N T S

◆【東京 TOKYO】…01～04

・きょうとあずま・意外と▲●■な街 ふりむいて東京♪・地域の中に「生態系」の息づく、八王子のお話し・「本郷もかねやすまでは江戸のうち」ー拡張する TOKYO・「東京」にはないものに憧れて・東京の思い出・東京・うた

◆今、こんな仕事をしています…05～08

◆事務所だより…09

◆近況&イベントのお知らせ…09～10

◆まちかど…裏表紙

・母から聞く神田のむかしと、ジョジョと歩く神田のいま

東京 TOKYO



東京は特別な大都市。世界自然遺産に登録された小笠原諸島があるとか、人口が日本一少ない青ヶ島村があるとかいう話はおくとして、特別区部の人口は974万人、人口だけ見ても突出しています。

東京の起源である近世の江戸城下町は、江戸城を中心に「の」の字の形に開発が進められたことは有名です。近代以降は外縁部の人口増加（下町化）↓都心化↓さらに外縁部の下町化、という展開が繰り返され、下町の発展は4つの段階に分けられるというのが三浦展の説。山の手の発展も4つの段階に分けられるとのことですが、4段階目の第4山のゾーンはもはや特別区部の外側です。

一極集中云々と言われながらもインターナショナルな都市として成長を続ける東京。森記念財団都市戦略研究所による世界の都市総合力ランキング2020ではロンドン、ニューヨークに次いで3位、この順位は2016年から5年間変わっていません。都は今も京都だ、とか、アンチ東京、とか、地方の時代、などという主張もどこ吹く風。オリパラを契機に東京は爆走を続けるのでしょうか。

レターズアルパック編集委員会

きょうとあずま

三輪泰司：名誉会長



皆さんは、学校を出て、すぐいまの職場に入られましたか？どこか寄り道をなさいましたか？

大学院は、職に就いていてもよいですね。1958年の1月、京都大学大学院に在籍したまま、就職しました。1963年6月まで、5年半、職場も住居も東京です。

修士論文は東京で仕上げました。テーマは「江戸時代住宅論」副題「後期封建社会の都市と庶民住宅について。庶民どもの住宅は残っていないので、とった研究方法は、一つは「お触書」つまり法律と、もう一つは「文芸作品」を調べることで。井原西鶴の浮世草子、近松門左衛門の世話物、黄表紙のたぐいから古典落語まで。武家法度や町方の規則で、町組の制度や長屋の構造が判ります。昔「サザエさんの家の間取りを描け」というお題がありました。日本建築は、3尺×6尺の「モジュール」で構成されています。「日本永代蔵」を読み込むと江戸や大阪の商家の間取りが描けるのです。

おかげさまで、論文は仕上がりました。「副産物」がたくさんできました。神田明神下、婦恋坂で、工事監督をした時、独り者ですので、事務所に泊まり込み野村胡堂の「銭形平治捕物控」を全巻読みました。基礎を掘っていたら、ほんとにテグス糸で束ねた六文銭が出てきました。隣の印刷工場が火事を出し、アワ消火器で消し止めました。神田消防署から感謝状をもらいました。ご近所と仲よくなり、「め組」の親分が現場へササを立ててくれました。空間構造でみると、東京の地形は起伏が多い。ナンとか「坂」や、ナンとか「谷」がやたら多い。渋谷なんぞは谷底です。必需品は、変速ギア付き自転車。

「時間軸」で見ると、江戸「開府」から400余年、三河、駿河、越後などから集まってきた。佃島は浪速から呼び寄せられ、漁業権を与えられた漁民のコロニー。こうして「江戸っ子」になりました。

「東京」は、ローカルコミュニティの「集合」です。その「あつまり」がありましたね。「東都のれん会」54社。1951年（昭和26）設立時のモデルは「京百味会」。「味」だけ63社です。京都では2012年（平成24）京都府の肝いりで「京

都老舗の会」が設立。すべての業種でなんと1970社。条件は、3代100年。コロナ禍で、ハタと気が付きました。我々の務めは、広く永い目で、身近な問題解決。最もローカルなものが、最もインターナショナルに通ずる。持続する社会とは身近にあるのです。現地・現場で、人々に鍛えて頂くのです。

1988年（昭和63）2月、「江戸っ子に奉仕しよう」と東京事務所を開きました。記念して、10月6日、隅田川下り。浅草橋から浜離宮まで。九州、名古屋、大阪などの事務所は、お客さんへのお土産にブリキの金魚など、子どものオモチャを贈って祝いました。

「京百味」は、京都老舗の会（Kyoto Company Century Club）のロゴ。京都老舗の会（Kyoto Company Century Club）のロゴ。京都老舗の会（Kyoto Company Century Club）のロゴ。



出典：東都のれん会・京百味会等のホームページより

意外と▲●■な街 ふりむいて東京♪

黒崎晋司：東京事務所多摩分室



瀬戸内の海辺で生まれ育ち、高校卒業後、東京で暮らし始めました。新宿・渋谷・池袋など歓楽街に歩いて行けるエリアの安い下宿や木賃アパートに住み夜の街を徘徊していました。

その後、郊外の住宅地である多摩地域で暮らすようになり、生活も少し落ち着き、朝の公園を散歩するようになりました。

「コンクリートの街」、「満員電車の街」といったイメージを少年の頃にもっていた東京は、住んでみると意外に良いところも多いではないか！というのが現在の実感です。

例えば、みどり。東京の人はみどりを大切にすることが多いと感じます。自然に囲まれた田舎で育ったばかりにとって、海や山は、遊び場であり、狩猟の場

でした。そこでは、自然の恵みを享受しながらも、自然を大切に育てるという意識は低かったと思います。いわば、当たり前前に身近にある自然でした。逆に、東京では、自宅の庭や玄関先、駅前の花壇、道路の街路樹など限りある空間でみどりがとても大切にされています。

例えば、食。高級レストランから、格安の定食屋さんまで、バリエーションの広さは勿論、野菜や果物など地場の美味しい食材も、見逃せない魅力です。東京の農家さんを訪ねてお話を伺うと、ユニークな取組や工夫などが美味しい野菜を支えていることに驚き、得心します。また、電車で揺られて上流域に行けば、美しいヤマメ・イワナに出会える溪流釣りが日帰りでも可能です。

固定化されたイメージを払拭し東京の隠れた魅力を身近な地域で探すが、コロナ禍での豊かなライフスタイルにつながるのかもしれない。日々の暮らしのなかで、▲●■な意外性に富むおでんのような街＝東京の魅力を再発見していきたいと思っています。

地域の中に「生態系」の息づく、八王子のお話し

依藤光代：都市・地域プランニンググループ

『僕らの八王子 毎日がいい』という笑顔が絶えないこの街で僕ら生きていく（僕らの八王子）。東京都の西の端、八王子市のお話しです。

2016年から3年間、家族4人で八王子に暮らししていました。冒頭はよく知られた地元ソングの歌い出しで、歌詞の中には「高尾のふもと」と出てきます。山によってまちの境界が縁どられているので、「わたしのまち」と思いやすい空間構成となっていて、住んでいる人の愛着が強いように感じていました。若いころに大学入学や就職を機に市外に出たとしても、出産後に戻ってきて親の近くで暮らし、子育てを手伝ってもらう人も周りにたくさんいました。

ところで作家の森博嗣は、「都市」での生活の様子を、人間は通勤電車に乗せられて移動し職場で時間通りに働く生活を送っている、人間がまるで機械の一部のようだと言っています。

八王子は、自然に触れる生活を目的に移り住む人も多く、庭で綿花を栽培したり、週末

には山梨県のキャンプ場へ行くなど、都市に働きに出ることと自然を楽しむライフスタイルが両立しています。また、子育てをしているママが暮らしに近いところで、好きなことやできることを核に、身の丈に合った起業をする動きが活発です。このような起業は、内容もやり方も多様であり、また他の起業家や地域の生活者とネットワークしながら分散的に活動しています。起業ママのコミュニティに成長して、様々なイベントなどに結実しています。その様は、人工と対極にあつてより自然に近く、「生態系」を思わせます。

人工的である大都市の片隅にあつて、自然的で有機的な暮らしが成立しているまちなのです。



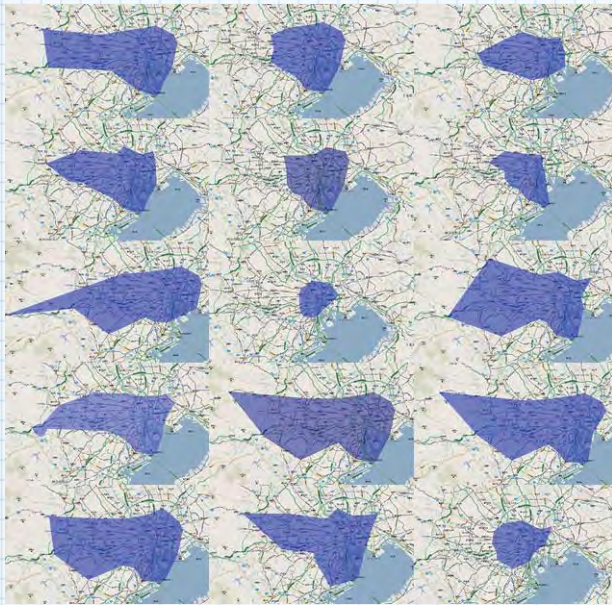
起業ママたちの手による、駅前イベントネットワークが表出している

「本郷もかねやすまでは江戸のうち」ー拡張する TOKYO

堀口浩司：取締役副社長

いわゆる東京の範囲はどんなものでしょう。大東京市(35区)時代、昭和18年の東京府の時代があったことは承知していますが、行政界ではなくイメージの「東京」はどこでしょう。「江戸」の範囲は、1700年代に大岡忠相(越前)は、江戸の防火性能を向上させるため、屋根は瓦葺きに、外壁は塗壁・土蔵造りと定め、今の本郷3丁目にあった「かねやす」の南までを耐火構造に指定したとあります。当時の江戸のサイズは8キロメートル四方程度であったようです(注：正確には東京都古文書館「江戸東京を知る」を参照ください)。

現代の「東京」の範囲はどうでしょう？東西方向は河川と高尾山が境界になっていて、超えると地域イメージもガラッと変わるので、概ね行政界と一致するように思います。南北方向では埼玉県、神奈川県との境

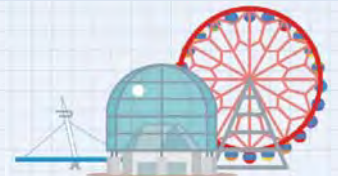


界部分が鉄道の沿線イメージが絡んでくるので、関西人からすると判りにくいところですね。この「どこまで東京？」について、500人ぐらいの人に図画化してもらったサイトを見つけました。首都圏在住でも一人ひとり範囲が異なっていてその結果は興味ぶかい。私の予想どおり市川市や葛西の水族館、デイズニードはやはり千葉でした。さて大阪の範囲はどうでしょう？地形的に大阪平野はせいまいので、簡単かもしれません。

図は「どこまで東京？」より転載
<https://dailyportalz.jp/b/2011/04/22/a/>

「東京」にはないものに憧れて

渡邊美穂：公共マネジメントグループ



東京の魅力は何でしょうか？

「東京にしかないお店がある」「人との出会いがたくさんある」「おしゃれ」とかでしょうか。

一括りで東京といっても様々な地域があるので一言で魅力を語るのは難しいかもしれません。

私は東京の方(都内まで頑張っても1時間強はかかる近隣圏)のニュータウンで生まれ育ったのですが、東京を全く知りません。東京よりも、その土地のお祭りや行事、ならでは食べ物などがある暮らしに憧れて、東京ではない場所で暮らしてみたいと思っていました。念願叶い？東京を離れ、学生の頃は九州で、今は関西に暮らしています。

どちらの場所でも食べ物を中心に憧れていたものを満喫してきました。魅力的なものばかりなのですが、何よりも同年代の友人達がふつうの事として、生まれ育った地域のことを話していることに驚き、かつこよく思いました。「今の旬はこれ」「お祭りがあるから帰省する」「〇日にはちゃんと焼きだから」などなど。これって、シビックプライド、ふるさと

意識とか言われるものですよね。仕事ではどうやってこれを醸成、高めるのかと方策を考えるわけですが、その土地での日々の暮らしの積み重ねなのだ実感します。

友人達がまとうナチュラルなシビックプライドに圧倒されるのですが、私は出身を訊かれたら東京の方と言うものの、「東京」だけでなく、生まれ育った地域のことを見ていなかったの友人達のように語ることができません。そろそろ、「憧れるもの」を追うところから「憧れたもの」を語れるように、生まれ育ったまちをもう一度、まずは夏の食べ物から、見つめてみようと思っています。



東京の思い出

小島みのり：都市・地域プランニンググループ



団地の集会所の様子

3年前、大学院進学のため、地元仙台を離れ上京することになりました。家を探していたところ、先生から「学校の近くの団地でプロジェクトが始まるので、何人か住んでみませんか？」と連絡があり、研究室のメンバーとルームシェアすることが決まりました。そんな中で過ごした東京の思い出を書いていきます。

①団地での生活…団地に引越すと同時にプロジェクトが始動し、「大きなキッチン付き集会場を拠点としたコミュニティ形成」という課題を与えられました。防災会に入ってみたり、定期的にごはん会や持ち寄りの居酒屋を開いてみたり、本を置いて出入り自由にしてみたり…。住民目線で、震災について客観的に考えることが出来るようになりました。修士論文では震災に関することをテーマにし、東京と宮城・岩手を行き来しながら少しずつ起こったことを理解していきました。

③映画館…東京で一番好きだった場所が、映画館です。地元の映画館は殆どがシネコンでしたが、東京にはマニアックな映画を上映する小さな映画館がたくさんあります。国立映画アーカイブに「2001年宇宙の旅」の特別上映を観に行ったのが思い出深いです（始発で整理券を取りに行ったのに既に大行列でした）。

他にも書き切れないほど思い出がありますが、とにかく色々な経験が出来た2年間でした。

ゆるい繋がりが続くような仕組みを考えては実行する日々でした。

②東日本大震災…地元にはいた頃は、あまりの大きな出来事に頭が追いつかず、目を背けてしまうほどでした。しかし、東京に身を置き、少し距離を取ることで、

東京・うた

坂井信行：東京事務所長

タイトルに「東京」が入った歌は星の数ほどあるのですが、その中から5曲だけあげてみました。深い意図は全くありません。思いつくまま。

●トキョーレギー／高中正義（1976）

マニアックというかレアというか、なんと高中ご本人の歌入り。フェンダー・ストラトキャスターのハーフトーンと甘い(?)ボーカルが聞けます。英語のタイトルは「TOKYO RAGGAE」とのこと。ちなみに歌詞に「東京」は登場しません。

●東京ララバイ／中原理恵（1978）

昭和歌謡の王道、東京子守唄。歌も大ヒットしましたが、当時中学生だった私には、欽ドンの良い妻・悪い妻・普通の妻の中、原理想さんが記憶に残っています。わかる人少ないですよ（知ってそうな年代の人に聞いてください）。

●TOKIO／沢田研二（1980）

こちらも昭和歌謡の王道。ジュリーが一番輝いていた頃でしょう。か。久しぶりに聞いてみると結構なディスコションを効かせたギターに当時流行のテクノサウンドで味付けされています。



東京ステーションギャラリー 展示会場にて

す。作詞は糸井重里、どうりでTOKIOではなくTOKIO。あつ、Y.M.O.か。

●東京／浜田省吾（1980）

ズバリそのもののタイトルの曲です。少し重めの歌詞といい、厚みのある歌声といい、典型的な浜省節が今聞いてもいい感じ。「高速道路の下で生まれて、地下鉄の上で死んでゆく」

●TOKYO JUNG（The Street Sliders）（1984）

これはFUNKな曲ですが。いや、縦組みの誌面では厳しかったかもしれませんが。和製ストーンズ。こういうバンドって最近は見かけないですね。「のら犬にさえないな」という曲もありました。今なら「のら猫にさえないな」との方がウケることでしょう。

カッコ内は発売された年ですが、古い！。しかしトキョーレギーが45年も前の曲だなんて信じられませんか。以上、みなさんの参考になれば幸いです。

コロナ禍における東京の流通産業調査を通じて

貴船律子：

地域産業イノベーショングループ

令和2年度、東京都下の流通産業（卸・小売業）一万社を対象に東京都が実施した「東京の中小企業の現況調査（流通産業編）」をお手伝いしました。

当調査は、東京都が3つの産業分野（流通産業、サービス産業、製造業）を毎年ローリングして実施しているものです。

東京都の卸売小売業は、全事業所数の24.2パーセント、経済活動別都内総生産（名目）が20.3パーセントを占める産業であり、首都圏の大きな市場を中心に事業を展開している点が特徴となっています。

今回の調査では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた企業は7割を超え、D1値はリーマンショック時よりも低い値となっており、その影響の大きさが明らかになりました。しかし、このような厳しい事業環境下でも新たな取組にチャレンジする動きがみられました。特徴的だった点は、卸売業では「インターネット販売」「消費者向け販売」「店舗支援

「消費者向け販売」「店舗支援



「東京の中小企業の現状（流通産業編）」
https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/toukei/chushou/genjyou/

の強化」、小売業では、「ホームページ等を通じた店舗・商品の情報発信」「宅配サービス」「インターネット販売」において、コロナ禍で売上高が増加・横ばいの企業よりも減少した企業の方が実施している割合が高く、売上高減少企業も厳しい事業環境の中で新たな取組を実施していることです。

事業環境の変化に適應するだけでなく、さらに以前の事業構成や仕組みを解体し、新たに持続可能な事業のあり方を自ら構築していくことが重要になっていると考えます。それは、コロナ禍だけでなく、昨今の自然災害や地政学リスクの高まりを考慮すると地域経済のレジリエンス力を高めることに繋がり、そのような中小企業の取組を促進する地域産業振興のあり方や方策を今後も追求していきたいと思っています。

地元と学生の協働による景観まちづくり

山崎将也：

都市・地域プランニンググループ

八王子市で地元の人と大学生が自由に意見を交わし合うワークショップを支援しています。

昨年度から、八王子駅北口地区の景観づくりを進めるための業務を行っており、その中で市民参加によるワークショップを支援しています。このワークショップでは、地元の住民や商業者だけでなく、市内外の3大学の学生にも参加してもらっているのですが、学生の中にはこれまで地区を訪れたことのない人もいて、地元の人とは異なる目でまちを捉え、それが地元の人の新たな発見となる好循環が出てきています。

7月に行ったワークショップは、事前に3大学の学生がまち歩きを行い、生活者目線・来訪者目線などそれぞれの視点から地区の良いところ、価値となるものをまとめ、参加者にプレゼンを行うところからスタートしました。その後のテーブルワークでは、参加者が共感できるプレゼン内容（まちの価値）を選び、その価値がなぜ良いのか、価値を伸ばすためには何が必要か、意見交換を行いました。

住む人に快適なまちとするための空間の使い方や、地区の特徴を生かした新たな活動の提案

など、地元の人にとって共感や新たな気づきがあったようで、そこに住民や商業者としての思いを重ねることで地区を良くしていくためのアイデアが膨らみ、ワークショップは盛り上がりしました。

日頃、地区での暮らしを送っている人にとって、外部の若い人からの提案は大きな刺激になったと思いますが、コンサルである自分にとっても自由に楽しみながら発想することの大切さを改めて実感する貴重な経験となっています。



ワークショップの様子

遊園地とニュータウンとガンダムがいる 都市のまちづくり

田中史志：
東京事務所多摩分室



J R南部線稲城長沼駅前に鎮座するガンダム

東京多摩地域の南東部、神奈川県境に位置する人口9万人の都市、それが稲城市です。
稲城市と聞いてピンとくる人は都民でも少ないかもしれませんが。遊園地好きには「よみうりランド」があるまち、野球好きにはジャイアンツのホームタウン、サッカー好きには東京ヴェルディのホームタウン、アニメ好きにはガンダムのメカニックデザインー大河原邦男氏の出身地といった方が伝わるかもしれません。
稲城市は、多摩川の沖積平野と多摩丘陵からなる起伏に富んだまちです。平地部は既成市街地と梨畑を中心とした農地が占めており、その名も「稲城」という大型で美味な赤梨系品種が有名です（残念ながら市場にはほとんど出まわりません）。丘陵部は多摩ニュータウンが一角を占めるほか、米軍の「多摩サージス補助施設」という広大な緑



梨畑が広がる稲城市の風景
(中央右寄りの白い建物が市役所)



TOKYO GIANTS TOWN 構想予定地
(南山東部土地区画整理事業)

地が広がっています。
稲城市は都内でもまちづくりの動きが活発です。J R南武線の3駅周辺、丘陵部等では土地区画整理事業による宅地開発が進んでいるほか、区画整理事業に隣接してTOKYO GIANTS TOWN構想として野球場等の整備も行われています。
稲城市では現在、都市計画マスタープランを見直しています。来年度の完成に向けて議論を進めています。変貌する都市のなかで、住宅団地のオールドタウン化、既成市街地等での生活道路の不足、急傾斜地での防災対策などの課題もあり、将来の都市のあり方や課題への対応方策等について今後検討を深めていく予定です。

小平市みどりの基本計画の改定を支援しました

石川聡史：
都市・地域プランニンググループ

東京都小平市において、令和元年度、2年度にみどりの基本計画の改訂を支援させていただきました。アルパックでは関東地方初のみどりの基本計画策定業務になります。

小平市は多摩地域に位置する人口19万人の都市です。東京都心への通勤圏でありながら、江戸時代に築造された玉川上水や野火止用水、武蔵野新田特有の短冊型農地などが個性豊かな緑が多く残っています。また、水路や緑道、公園などで構成される全長21キロメートルの水と緑の散歩道「小平グリーンロード」が多くの市民に親しまれています。
小平市に限りませんが、今後多くの自治体で人口が減っていくと予想される中、公園・緑地を新たに整備していくことは難しい状況です。そこで、今ある緑をいかに活かして都市の魅力・価値を高めていくかを重要なテーマとして設定し、緑の適切な維持管理や多様な活用を施策の柱として位置付けました。



令和3(2021)年3月 小平市
小平市第三次みどりの基本計画
～みんなが笑顔で、みどりがいっぱい～

例えば火災の延焼を防ぐことができるし、良好な景観形成にも寄与します。そのほか最近では、緑化活動を通じて地域コミュニティ活動が活発になる、植栽を配置することで商業空間の集客力が高まる、公園で子育て世代のコミュニティが生まれるといった「生活や都市活動の中で緑が媒体として機能する効果」も注目されています。また、今の遠出が難しいコロナ禍において、都市の公園・緑地は身近で貴重な憩いやレクリエーションの場として再認識されつつあります。
本計画では、公園・緑地のほか、先に述べた水路や農地、緑道など小平市の个性的な緑の適切な維持管理や活用を進めながらその多様な効果を引き出し、魅力的で持続可能なまちづくりを進めていくというストーリーで策定しました。

芸術文化が薫るまち、東京の長崎



道路用地として買収され、柵で囲われた何もない空間

稲垣和哉：

都市・地域プランニンググループ

上司「長崎の仕事やってみませんか?」、私「九州の仕事か、楽しそう」やりましょう」気が付いたら私は東京の長崎にいました。みなさん、東京にも長崎があるって知っていましたか?

予期せぬ形で東京都豊島区の長崎地区のまちづくりに関わることになったのですが、このあたりに手塚治虫、藤子不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫など著名な漫画家が住んでいたトキワ荘があります。その他にも、昭和初期に若い芸術家向けにアトリ工付貸家が集まったアトリ地区は芸術文化の薫りがするエリアなのです。

業務自体は東京都が整備を進めている都市計画道路の整備に合わせ、沿道の残地活用・代替地創出、沿道建物更新・共同化促進、駅前共同化事業の推進、道路公園等の公共施設整備を検討するなど、地区全体の木密地域の改善に向けた取組みを検討するものです。都市計画的な手続きの難しい話がベースにありましたが、まちづくりの方向性を考えるにあたって芸術文化という切り口は良いアクセントになりました。

まちづくりに関わる仕事をしていると、具体的に何かをつくるわけではないので、「変わっている」という実感がなかなかわきづらいます。そんななか現地調査で、道路用地として買収された土地を発見しました。柵で囲われた何もない空間なのですが、道路整備の計画が可視化されたように思えて思わず写真をとりました。もちろんポジティブな意味で撮ったわけではないのですが、この業務をきっかけに、この空間が暫定的にでも地域のために活用され、そのうえで道路が完成すれば、「変わった」と実感できるのではないかと思います。これはそのための記録写真です。

ストリートカルチャーを活かした新たな魅力づくり ～川崎市のスケートパーク～

木下博貴：

地域再生デザイングループ



東京オリンピックから新たに追加された競技にスケートボードがあります。

街並みを再現したコースで自由に滑走しているように見える「ストリート」と、窪地状の複雑なコースでトリックを競う「パーク」とがあり、最近ではテレビでも良く見かけるようになりしました。また、各地で本格的なスケートパークを整備する事例も見受けられ、直近では、ムラサキスポーツが2021年4月にオープンした笠間芸術の森公園スケートパークなどがあります。

アルパックでは、昨年から川崎市で本格的なスケートパークを民間事業者との連携によって整備しようという取り組みの支援を行っています。

川崎市では、若い世代をはじめ、あらゆる世代が活躍する持続可能なまちづくりを進めていく観点から、川崎らしい地域資源である、ヒップホップなどのストリートカルチャーやBMXやスケートボードなどのエクストリームスポーツ等の若者文化の発信により本市の魅力を高め「若い世代が集い賑わうまち」を目指しています。

オリンピックの新種目には、



笠間芸術の森公園スケートパーク（笠間市）

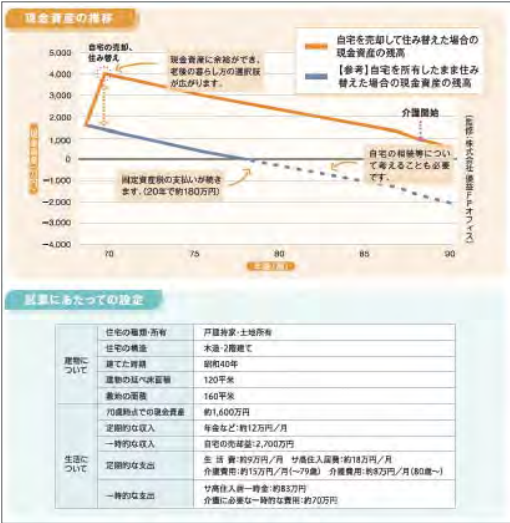
バスケットボールの3×3やBMX（フリースタイルパーク）、スポーツクライミングが追加されるなど、スポーツの取り巻く環境は大きく変化しつつあるなか、こうしたストリートカルチャーがもともと有している多様性を尊重するという価値観は、子ども若者以外の方であっても、ダンスなどに親しむことにより健康づくりにつながるなど、業務を通してスポーツの新たな取り組みと可能性を知る機会となりました。



空き家問題は全国共通

住み続けたいか・住替えたいか、あなたはどちらですか？

竹内和巳：地域再生デザイングループ



これからの暮らし方に合わせた自宅の使い方を。P.S.皆さんも、今のうちに自身とご自宅の将来を考えてみませんか？関東圏の市街地はまだまだ人口増の傾向にあり、市場に流通さえすれば使い手がいる、ということとは衝撃的でした。

一度、空き家になってしまうと、そこから活用・流通に回すために大きな労力が必要です。そのため、できるだけ「自宅に住んでいううちに自分の将来の暮らし方を考えておく」ことが大切です。

2019年度に、川崎市の高齢の住宅所有者に向けた「これからの暮らしと家のことを考えるための冊子」を作成しました。冊子の中では、「リフォーム

関西の皆さん、2019年に川崎市が神戸市の人口を上回ったことを御存じでしょうか！

東京に隣接し、まだまだ人口が増えている川崎市ですが、昭和期に鉄道事業者を中心として沿線開発が行われた地域をはじめとして、空き家が増えています。

一度、空き家になってしまうと、そこから活用・流通に回すために大きな労力が必要です。そのため、できるだけ「自宅に住んでいううちに自分の将来の暮らし方を考えておく」ことが大切です。



ライフプランのシミュレーション例

環境省での業務について

駒和磨：サステナビリティマネジメントグループ

主に公害行政、自然環境保護などを強化すべく環境庁は、1971年に発足し、2000年の中央省庁再編に伴い、それまで厚生労働省の管轄であった廃棄物部門が移管される形となり、今の環境省が発足しました。

その後、地球温暖化や原子力規制委員会が設置されるなど、環境を軸に社会が直面した困難な課題に対応する官庁として、年々その役割が拡大しています。

出向中の私が所属していた地球温暖化対策事業室は、石油石炭税や電源開発促進税を財源とした「エネルギー特別会計」と呼ばれる地球温暖化対策に関する補助金・委託業務を多く所管しています。その中でも、私が新規補助事業立ち上げに携わった、「再エネ大量導入に向けた需要側の運転制御設備導入の補助事業」を紹介します。

2020年10月26日の総理所信表明でもあった「カーボンニュートラル」の達成に向けては、徹底的な省エネを実施した上で、天候など自然の状況に応じて発電量が左右される変動性再エネ（太陽光発電、風力発電）の導入が重要になってきます。

一方、電力システムは電力の質・周波数安定の為に、「需給

一致」が原則とされ、基本的には需要を所与のものとして、需要に合わせて供給を行うという形態が採られてきました。しかし、変動性再エネの導入に向けては、供給側の制御では無く、需要家側の設備（照明、空調、蓄電池等）をIoTを活用した高度なエネルギーマネジメント技術により制御し、電力の需給バランス調整に活用する仕組み（バーチャルパワープラント（VPP））の構築が進められています。

本補助事業は、こうした仕組みがあっても制御する設備が無いと進んでいかないので、蓄電池等の需要側設備、遠隔から需要側の設備の導入を支援する事業として生まれました。どのような設備を補助対象とするかについての制度設計や、国費の無駄が出ないように役割分担等するため他省庁との調整を担当し、令和2年度から補助事業がスタートしました。

新規事業の立ち上げは、想像してたよりもハードでした。今後、脱炭素化に向けて、必要になってくる事業なので、いつの日か自分が携わった事業が、地域で活かされる事例を聞くのを楽しみに、日々の業務を頑張りたいと思います。

「一致」が原則とされ、基本的には需要を所与のものとして、需要に合わせて供給を行うという形態が採られてきました。しかし、変動性再エネの導入に向けては、供給側の制御では無く、需要家側の設備（照明、空調、蓄電池等）をIoTを活用した高度なエネルギーマネジメント技術により制御し、電力の需給バランス調整に活用する仕組み（バーチャルパワープラント（VPP））の構築が進められています。

「身近な場所で再発見」

東京事務所 佐藤衣織

最近、東京事務所から東京駅まで散歩をしてみました。事務所から東京駅までは徒歩10分ほどで行くことができます。事務所を出て2～3分のところには川が流れていて、川沿いは休憩スペースとなっており緑も多く、ランチ時にはランチカーが来ているなど癒しの空間となっています。さらに大手町駅方面へ進むと、高層ビルが建ち並び冷たく窮屈なのかと思えば、大型のオブジェが飾ってあったり、ビルの間にはテラス席のあるおしゃれなレストランやカフェ、歩道が広いので自分のペースで歩くことができるなど、まちの様子を感じながらとても楽しい時間を過ごすことができます。コロナ禍でなかなか遠くまで遊びに行けない中でも、こうした身近なところで再発見できることがあるなと思いました。東京事務所周辺はまだ魅力が沢山あるので時間を見つけてまた歩いてみたいと思います。

「^{きじし}木地師のふるさと」

滋賀営業所 小川直史

滋賀営業所が位置する東近江市は“木地師のふるさと”と言われています。

木地師とは、主に轆轤^{ろくろ}を用いて椀・盆などを作る木工職人を指します。木地師は、轆轤の使用だけでなく樹木伐採や木工の一連の過程で独自の道具と技術を保有し、良材を求めて各地を渡り歩いていました。その木地師はどこから出発してきたのか。その“ふるさと”の由来は伝説にあります。

平安時代初期に惟喬親王が東近江市の小椋谷に隠遁し、村人に轆轤技術を伝えたという“惟喬親王伝説”が伝承されており、惟喬親王を祖神として、全国の木地師は小椋谷を出自の地とする帰属意識を共有していました。また、小椋谷は全国の木地師を把握・統括し、手形・免許・鑑札・神札等を発行して、諸国で樹木伐採や搬出、異動を行うことに権威付けをするなど、木地師社会の保護を担っていました。このような背景から“木地師のふるさと”といわれ、木地師文化の発信をアルパックも支援しています。



事務所だより

適塾路地奥サロン報告

適塾路地奥サロン実行委員会

34回 「コロナ禍で都市は変わるか～欧米都市からの報告～」

2021年
5月14日

講師 龍谷大学研究フェロー 矢作弘氏

第34回では「ポストコロナの都市のかたち」と題して龍谷大学研究フェロー矢作先生にお話をいただきました。

コロナ禍において、感染拡大抑制のためには、個人・企業・団体、私たちはソーシャルディスタンスを徹底的に実施しなければなりません。その動きの中、地下鉄をはじめ、大都会における公共交通機関は集団感染の原因と叩かれ、高密度都市に対する批判の声がありました。それに対して、先生はアメリカの幾つかの都市の人口密度、そのまちに住んでいる人の構成、所得、インターネットへの接触等を分析した上、高密度都市が感染症に潜在的にリスクが高いが色々な客観的な条件も重なるため、一概にコンパクトシティを批判することができないと述べられました。また、社会に定着しつつあるリモートワークに対して、矢作先生は「コロナ禍はリモートワーキングの追い風になるが、突風にならない」とコメントされました。実際、リモートワークを推進している御本家のGAFAの中でも、オフィスに呼び戻す動きが見られています。最後に、歴史上のパンデミックや災害を経験した都市のハードのかたちを分析しながら、先生は都市が危機から甦ると強調されました。(ホアンゴック チャン)

35回 「移動貧困社会からの脱却～免許返納問題で生まれる新たなモビリティ・マーケット～」

2021年
6月18日

講師 モビリティジャーナリスト 楠田悦子氏

第35回では楠田悦子氏をお招きし、歳を重ねても障害があっても、安全で自由な移動に困らない、暮らしと社会のためのモビリティ（移動手段）のあり方についてお話をいただきました。

近年、高齢者の免許返納が増加していますが、送迎の為に家族の負担が増えることや、公共交通は意識のバリアがあり利用し辛いこと、また、外に出ず引き籠って元気がなくなってしまう等の状況があります。楠田さんはそうした、車以外の移動手段が整備されていない日本の状況を移動貧困社会と述べています。今後、そうした交通弱者はより一層増加していくと予想されており、そのための対応策として、様々な移動手段を使うことで、自分で移動できる移動寿命を延ばしていくことが重要であると述べられました。免許返納と公共交通の利用や介護保険等が連携することや、子どもの頃からのモビリティ教育など、ハード面の道路整備だけでなく、行政と事業者が連携する仕組みづくりの必要性について、様々な切り口からお話をいただきました。

移動は生きることそのものであり、平等にあるべき権利だという視点が、持続可能なまちづくりを考える上でも重要だと感じました。(太田雅己)

近況 & イベントのお知らせ

豊岡市職員3日+アルパック2日のワークスタイルに挑戦！



遠藤真森

豊岡市農業ビジョン→

地域産業イノベーショングループ

2018～19年度にアルパックで策定支援した兵庫県豊岡市の農業ビジョンを推進するため、今年4月に市役所農林水産課内に設置されたグッドローカル農業推進室に外向しています。

外向にあたり、豊岡市へ移住し、空き家になっていた父の実家に住みながら、週3日は市役所勤務、週2日はアルパックの仕事という、新しいワークスタイルに挑戦しています。まだ慣れない部分もありますが、農家さんなどとの交流や広大な自然、豊かな食、生き物を楽しんでいます。

室の名前にもなっている「グッドローカル農業（以下、GLA）」とは、ビジョンで描いた豊岡農業の将来像です。環境、経済、社会の適切なバランスを支え、「持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業のあり方」をGLAと呼び、その実現を目指します。詳細は二次元コードから農業ビジョンをご覧ください。

推進室では、まずは聞ききれないGLAを多くの人に知ってもらうため、SNSで豊岡の農業、農村、食の魅力をGLAの観点を交えて発信しています。また、市内の農業関連の現場を訪れ、交流等を通じて魅力を発掘したり、人と人、人とサービスをつなげ、新たな取組を生み出すお手伝いをしたりしています。今後は、ビジョンの推進委員会の開催や、具体的なプロジェクト

創出などを進めます。

なお、外向にあたっては、総務省の地域活性化起業人制度を活用しています。民間企業から自治体へ人材を派遣し、派遣された「地域活性化起業人」はノウハウや知見を活かしながら地域活性化に向けた業務に従事します。そのような派遣に対し、総務省から受入自治体に財政支援等を行う制度です。

計画を作るだけでなく実現させるところまで、新しい形で取り組み、持続可能なまちづくりに貢献します。

※ SNSはInstagram、Facebook、Twitterで「豊岡グッドローカル農業推進室」とご検索ください。



二つの特命ユニットが発足しました

畑中直樹

取締役担当役員

中期ビジョンの重点アクションの一つとして、新たな社会課題解決へ貢献するため、横断的な新分野の創出と新リーダーの育成に向け、二つの特命ユニットが発足しました。

ソーシャルテクノロジーユニット（STU：Social Technology Unit）

○コアメンバー

佐藤拓也（サステナビリティマネジメントグループ）、原啓介（九州事務所・よかネット）、増見康平（建築プランニング・デザイングループ）、稲垣和哉（都市・地域プランニンググループ）

○取組内容

- ・ICT関連の知識、ツールの活用方法、業務への活用について分野横断的にサポート
- ・「地域」を大切にしながら、ITベンダーにはできない領域の分析・コンサルティングで貢献

ソーシャルエンタープライズユニット（SEU：Social Enterprise Unit）

○コアメンバー

江藤慎介（地域産業イノベーショングループ）、羽田拓也（地域再生デザイングループ）、豊福宏光（サステナビリティマネジメントグループ）、小川直史（地域再生デザイングループ）+深尾昌峰氏（龍谷大学教授・学長補佐（外部アドバイザー））

○取組内容

- ・社会実装、事業化に関するノウハウ（資金調達、法令他）について所内のノウハウの見える化、現在の業務等から実際に実践
 - ＊ソーシャルエンタープライズユニット勉強会（月2回）をスタート
- ・官民連携が必要な新たな領域への専門的対応
 - ＊ルールメイキング／パブリックアフェアーズ
 - ＊地域金融



須田町のいせ源と竹むら：のこぎりで氷を切るおじさん

山本 梓：

東京事務所多摩分室

ま
ち
か
ど

母から聞く神田のむかしと、

ジョジョと歩く神田のいま

よく「住むところなんてあるの？」と驚かれるほど生活感のないまちなのですが、私の母方の家系は江戸時代から代々、東京事務所のある神田に住んでいます。

東京は空襲で焼け野原になってしまいました。母が生まれ育った淡路町・須田町には、戦災を免れた老舗有名店が数多く残っています。神田まつやもその一つ。午後の早い時間から蕎麦味噌や板わさを肴に呑む地元のおじちゃん達で賑わっています。母曰く、江戸っ子にとってお蕎

麦屋で呑むのは通で、この光景は今も昔も変わらなそう。

まつやの角を曲がりすこし歩くと、今は亡き祖父が戦前「キツチャテン」と呼び、通った喫茶店「シヨパン」があります。母の20代の思い出もたつぷりつまった場所です。このあたりは、かつての下町。神田を感じる事ができる貴重な一角なのです。

今私が住んでいるのは、そこから10分ほど歩いた「紺屋町」という地区です。江戸時代の神田は職人のまちとして賑わっていました。紺屋町という名は、藍染職人が軒をつらねていたことから付いたそうです。区画整理で多くの町名が失われてしまったものの、歴史文化にちなんだ町名が今もなお数多く残っています。紺屋町から南に20秒歩くと「北乗物町」、北に20秒歩くと「富山町」という具合に。

今日の紺屋町は雑居ビルや駐車場、居酒屋ばかりで、お散歩欲がそえられる！とは言いがたく、ただ通りすぎる場所、そんなふうに思っていました。しかし、ジョジョという寄り道の名人（愛犬）と暮らし始めて、私はこのまちの面白さをじわじわ

わと感するようになりました。

ジョジョは、ビルとビルの隙間を覗いたり、普段通ることのない小道に入ったり、変なところで足を止めたりします。ジョジョと歩く、この雑多なまちなかにある人々の暮らしが目に入ってきます。古い低層ビルを見上げると、洗濯物が干してあり、鉢植えに花が咲いています。ビルの隙間には地域ネコのための、寝床やごはんが用意されています。同じまちに住んでいるのに、こんなところにも人が住んでいたのか！と驚きます。ほかに、箱屋に仕立て屋、香料メーカー、歯科技工士、薬問屋、塗料屋、印刷屋、何をしているかわからない〇〇工業など、多様な商工業が密集していることに気づかされます。

また、ジョジョが日々挨拶まわりとお友達づくりに動しんでくれるおかげで、ちょっとした顔見知りが増えました。老舗酒屋さんのお兄さんたちや祖母も通った美容室のおばさま、近くの清掃員さんに公園在住のおじちゃんなど。住んでいる人、通っている人、若い人、お年寄、今まで関わることのなかった人たちと知り合っていく。一見生活感のないこのまちにも、人の暮らしやつながりがある。いつもと違ったリズムでまちを体験する面白さを感じながら、明日もジョジョ散歩に出かけます。

表紙写真：銀座の路地裏で見つけた太宰治行きつけのバー（撮影 小島みのり）

「レターズ アルパック」は、ホームページからご覧いただけます。

アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto
https://www.arpak.co.jp E-mail: info@arpak.co.jp

本社・京都事務所

〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061

東京事務所

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-15-7 ユニゾ内神田1丁目ビル4F TEL(03)5244-5132 FAX(03)6273-7715

九州事務所

〒810-0802 (株) よかネット：福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パールビル8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

滋賀営業所

〒527-0012 東近江市八日市本町9-14 TEL(0748)36-2065 FAX(0748)36-2168

ホーチミン（ベトナム）No.187/7, Dien Bien Phu Street, Da Kao Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam

この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。